こしき沢接骨院便り

2014年 冬号

あれほど暑かった夏が嘘のように日増しに寒さが身にしみるようになりました。
季節の変わり目でもありますので、健康に気を使いつつ何かと忙しい師走を乗り切りましょう！

一人ひとりの患者さんに真剣に対応するため、予約制とさせて頂いております。ご予約はお電話で！

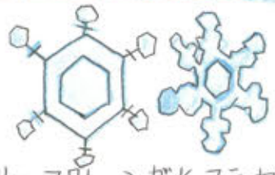
こしき沢接骨院　長岡市渡場町1－15　院長：顕澤幸一

TEL：0258－27－5642　HP：http://www.kksekkotsu.com/

常温で凍死した人，雪山でも凍えなかった人

同じ気温であっても，寒々しい中にいると想像する場合と，ぽかぽかした陽だまりの中にいると想像する場合では，実際の体感温度も違ってくるといわれています。それを証明する2つの際立った実例をご紹介します。

1つ目は旧ソ連であった怪死事件です。ある作業員の男性が冷凍庫に閉じ込められてしまい，翌朝，庫内で変死しているのを発見されました。検死の結果，死因は凍死と判明。ところがその男性が閉じ込められた冷凍庫は電気系統が壊れており，庫内は摂氏12度程度だったそうです。でも，その事実を知らなかった男性は，「このままでは凍え死んでしまう」と床に書き遺し山の遭難者のように一夜で，低体温症に陥って亡くなってしまったのです。



2つ目はまったく逆の例です。ハリウッド女優のシャーリー・マクレーンがヒマラヤで遭難しかけた際，太陽光のエネルギーを体内にとり込む瞑想をひと晩中行い，「今，私は太陽の光に満たされてとても温かい！」と思い続けたそうです。そのおかげで，極寒の中でも低体温にならず，九死に一生を得たといいます。これにならえば，冬だからと寒々しいイメージばかり思い描かず，心に温かな太陽のイメージを抱くことで，冷えを内面から撃退することができるかもしれませんね。

サンタさんのお話

そもそも「サンタクロース」ってどんな人なんでしょう？ 一説によると、教会では聖人として崇められている「聖(セント)ニコラオス」という人物だそうです。この方の名前をオランダ語にすると「シンタクロース」となり、それがアメリカに伝わり「サンタクロース」となり、日本にも定着したというわけです。

クリスマス・イヴになると子供達は枕元にくつ下を置き、そこにプレゼントを入れるというのが、日本ではお決まりの行事となっていますが、これはどういうところに由来しているのでしょうか？ 教会の説によると、昔、ニコラオスが、お金がなくて自分の娘を嫁に出せないという家に、夜中、金貨を投げ入れたところ、偶然くつ下の中に入ってしまった…という エピソードが伝わっており、それがいつのまにか子供達のくつ下の中にプレゼントを入れるという行事になってしまったということです。

一口に「サンタクロース」と言っても国によっていろいろ違いがあるようです。

ドイツではサンタは双子で、一人は紅白の衣装を着て良い子にプレゼントを配り、もう一人は黒と茶の衣装を着て悪い子にお仕置きをするそうです。

イタリアでは良い子にお菓子を、悪い子に石炭をくれる。

アイスランドではサンタが13人いて12月12日から毎日、ひとりずつ山からおりてきて良い子にはお菓子、悪い子には生のジャガイモを靴のなかにいれていくそうです。

国によっていろいろなサンタさんがいるなんておもしろいですね。

やっがしら ハッ頭っておいしいですよね。

若い人に「やっがしらって知ってる？」ってきいても「？？？」って人多いんですが、「ズイキって知ってる？」っていうとだれでもわかります。「やっがしらってズイキの根についている芋だよ」っていうと「はじめてきいた」って言われます。最近つくづく思うんですが、ハッ頭っておいしいですよね。しかしあまり店頭で売られていないようです。北関東や鳥取地方ではよく食べられているようですが、残念です。あのホッコリとした感触…もっと売られていてもいいと思うんですが…。